「おっかあ！」
与吉は、うちのわら屋根が見えると、思わず大きな声でさけんだ。
妹のふみが、すばやく兄のすがたを見つけたらしい、［　　］とんでくる。
ふみは、どしんと兄にぶつかると、
「にい！」
といって、まぶしいものでもながめるように、与吉の顔を見あげた。
「ふみ、もちを食ったら、ますますふくれたな。」
与吉も、なつかしさがむねにいっぱいになって、ふみのほっぺたを両手でだいた。
考えてみると、正月以来、ちょうどひと月ぶりに家にかえったことになる。
与吉は、去年の十月から弥平じいや五助おじといっしょに、油島の工事に出ていた。
与吉がふみの手をひいて、家のかどぐちの戸をくぐると、奥のほうから母親のふさがとびだしてきた。
「まあ、与吉！　なんやおまえ、ちょっともうちへこずに……。」
と、おこったような声でいうと、じいっと与吉の顔を見つめて、
「与吉、おまえ、ちょっとやせやせんか。」
と、ふいに与吉の顔を両手ではさんだ。
なんともいえない母親のなつかしいにおいが、与吉のからだ全体をつつんだ。与吉は、思わずふさにだきつきたくなったが、あわてて母親の手をはらいのけた。
「ううん、おら元気や、うでやって太うなったぞ。」
と、仕事着をめくって力こぶをつくってみせた。
「そんならええけど……。でも、なんでまた、ひと月もかえってこんのや。」
ふさは、またおこったようにいう。
「そんなもん、仕事がいそがしいんやでしかたがないさ。それに、日一日とつつみがりっぱにでけていくんや、楽しみでうちなんかかえっておれん。」
与吉は、おとなのようにそういって、いろりの横にあぐらをかいた。
（岸武雄『千本松原』あかね書房　による。一部省略した箇所がある）

主題の読み取り

作者が文章を通じて表現しようとしている中心的な内容を主題という。物語の主題を捉えるには、次の点に注目するとよい。

・人物を通して描かれる価値観や考え、人物の心情の変化や成長。
・出来事の展開、各場面における人物の行動。
・作品の状況設定、時代背景。

例題

この文章では、与吉のどのような気持ちが中心に描かれているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 長い間家を離れていたことへの申し訳なさと、家族に対するうしろめたい気持ち。
イ 家族から離れて暮らすわびしさと、それをこらえている自分を励ます気持ち。
ウ 久しぶりに会った家族に感じるなつかしさと、自分の仕事を誇らしく思う気持ち。

〔　　〕

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の状況に合うように、次の文の解答欄に当てはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

与吉は、［　　　］をつくる仕事が忙しく、正月から［　　　］ぶりに家に帰った。

(2) ［　］に当てはまる言葉として、適当なものを選びなさい。

ア おそれるように
イ ころがるように
ウ ためらうように

〔　　〕

(3) ――線部「じいっと与吉の顔を見つめて」とあるが、このときの母の心情として適当なものを選びなさい。

ア 与吉が急に家に帰ってきたことに困惑する気持ち。
イ なかなか帰って来ない与吉に怒りがこみ上げる気持ち。
ウ 少しやせた様子の与吉を心配する気持ち。

〔　　〕